

<応用特訓>12 「子どもの保健」

©2025sakurakosensei 転載・転売・流用禁止

<問題>

問1

次の文は、ヒトの体の構成要素に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- A ヒトの体を構成する元素には、酸素、炭素、水素、窒素などがある。
- B ヒトの体には、鉄、亜鉛、マグネシウム、銅などの金属がある。
- C ヒトの体には、タンパク質、糖質、脂質などがある。
- D ヒトの生命維持には酸素が必要であり、新生児では口呼吸で取り入れる。
- E ヒトの生命維持には窒素が必要であり、呼吸器を通して空気から摂取される。

(組み合わせ)

- 1 A B C
- 2 A C D
- 3 B C D
- 4 B D E
- 5 C D E

問2

次のうち、「発達障害者支援法」における発達障害の定義にあてはまるものとして正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 自閉症
- B アスペルガー症候群
- C 学習障害
- D 摂食障害
- E 感情障害

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | ○ | ○ |

問3

次の文は、子どもの身体のバランスに関する記述である。(A) ~ (E) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

子どもの身体のバランスは、成人と異なる。成人は一般に (A) 頭身といわれるが、これは頭部を1としたときに (B) 全体がいくつになるかを指している。これに対し、子どもは、新生児期が (C) 頭身、2~4歳児が (D) 頭身など、成人に比べて頭部の占める割合が高い。そのため低年齢の子どもほど頭部が重く、その頭部を支える体幹や上肢・下肢が小さいため、(E) が安定せず転倒しやすい。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	8	体重	3	4	歩行
2	6	身長	4	5	精神
3	7~8	身長	4	5	歩行
4	8	体重	5	6	体重
5	7~8	身長	3	4	精神

問4

次の文のうち、乳幼児の発達に関して異常の疑いがあり、早めに小児科の専門医を受診する方がよいものの正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 生後3か月児で、首が完全にはすわっていない。
- B 生後6か月児で、支えなしにはおすわりできない。
- C 生後12か月児で、何かにつかまって立ってられない。
- D 2歳児で、意味のある単語を言えない。
- E 5歳児で、名前を呼ばれても返事をしない。

(組み合わせ)

1	A	B	D
2	A	B	E
3	A	C	D
4	B	C	E
5	C	D	E

問5

次の文は、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- A 多くの場合1歳未満の児に突然の死をもたらす症候群である。
- B 睡眠中の原因不明の窒息が死亡原因である。
- C 主として睡眠中に発症し、日本での発症頻度はおおよそ出生 6,000～7,000 人に1人と推定される。
- D 診断するためには、解剖所見と死亡状況調査が必要である。
- E 昼寝の時に限って生じる疾患である。

(組み合わせ)

- 1 A B C
- 2 A C D
- 3 B C D
- 4 B D E
- 5 C D E

問6

次のA～Dは、感染症名と病原体の組み合わせである。正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 流行性耳下腺炎 ー—— ムンプスウイルス
- B 咽頭結膜熱 ー——— アデノウイルス
- C 百日咳 ー——— ヒトパルボウイルス
- D 伝染性紅斑 ー——— コクサッキーウイルス

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | ○ | × |
| 3 | ○ | ○ | × | × |
| 4 | × | × | × | ○ |
| 5 | × | × | × | × |

問7

子どもの反抗について、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 反抗は子どもが心理的自立を図る過程で生じる一過的な現象である。
- B 反抗が嘘言という形をとることがあるが、これは正常発達内のことなので特別の配慮を要しない。
- C 反抗がみられない子どもは、後になって精神的な問題を起こしやすい。
- D 反抗が通常の成長にみられる程度や期間を超えると、反抗挑発症（反抗挑戦性障害）と呼ばれる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	○	×

<解説>

問1 正答 1

- A ○ ヒトの体は、水のほか、タンパク質、糖質、脂質などの有機質、また、カルシウム、ナトリウム、鉄などの無機質で構成されている。これらの構成要素の最小単位は元素である。酸素、炭素、水素、窒素などは、有機質の構成元素である。
- B ○ ヒトの体を構成する無機質のうち、鉄、亜鉛、マグネシウム、銅などは金属の元素である。
- C ○ 選択肢の通り。
- D × ヒトは、生命維持に必要な酸素を呼吸で取り入れる。新生児の呼吸は、主に鼻呼吸である。
- E × 呼吸器を通して空気から摂取されるのは、酸素である。窒素は、タンパク質に含まれ食事等から摂取する。

問2 正答 1

発達障害は、「発達障害者支援法」に次のように定義されている。

第2条 この法律において「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

A～C ○

- D × 摂食障害は、「発達障害者支援法」における発達障害の定義にあてはまらない。摂食障害とは、単なる食欲や食行動の異常ではなく、1) 体重に対する過度のこだわりがあること、2) 自己評価への体重・体形の過剰な影響が存在する、といった心理的要因に基づく食行動の重篤な障害である。
- E × 感情障害は、「発達障害者支援法」における発達障害の定義にあてはまらない。感情障害は、双極性障害などの気分障害のことである。

問3 正答 3

子どもの身体のバランスは、成人と異なる。成人は一般に（A 7～8）頭身といわれるが、これは頭部を1としたときに（B 身長）全体がいくつになるかを指している。これに対し、子どもは、新生児期が（C 4）頭身、2～4歳児が（D 5）頭身など、成人に比べて頭部の占める割合が高い。そのため低年齢の子どもほど頭部が重く、その頭部を支える体幹や上肢・下肢が小さいため、（E 歩行）が安定せず転倒しやすい。

問4 正答 5

乳幼児の発達については、個人差があるものの、「乳幼児身体発育調査」の結果から著しく乖離している場合には、発達の異常を疑い、早めに小児科の専門医を受診する方がよい場合がある。ここでは「平成 22 年乳幼児身体発育調査」（以下「調査」）の通過率を参考にすることができる。通常 90%の通過率が指標とされている。

- A × 「調査」では、生後 2～3 か月未満で 11.7%、3～4 か月で 63.0%の子どもの首がすわっているとされている。したがって、生後 3 か月で完全にすわっていない場合に異常の疑いがあるとはいえない。「調査」では、90%を超えている通過率として、生後 4～5 か月未満で 93.8%としている。
- B × 「調査」では、生後 6～7 か月未満で 33.6%の子どもが、ひとりすわりができるとしている。したがって、生後 6 か月でひとりすわりができない場合に異常の疑いがあるとはいえない。「調査」では、90%を超えている通過率として、生後 9～10 か月未満で 96.1%としている。
- C ○ 「調査」では、90%を超えている通過率として、生後 12 か月未満で 91.6%としている。生後 12 か月でもつかまり立ちができない場合には、受診を勧めるとよい。
- D ○ 標準的な言語発達過程として、1歳から1歳半ごろには特定の事象を指す音声として初語が出現するとされているため、2歳児で意味のある単語が言えない場合には、受診を勧めるとよい。
- E ○ 「調査」では、生後1年6～7か月未満の乳幼児の90%以上が単語を話している、とされている。また「保育所保育指針」第2章「保育の内容」2「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」(2)「ねらい及び内容」エ「言葉」においても、「親しみをもって日常の挨拶に応じる」など、すでに挨拶や言葉遊びを楽しむことなどの表記があり、5歳児で名前を呼ばれても返事をしない場合は受診を勧めることが求められる。

問5 正答 2

- A ○ 「乳幼児突然死症候群 (SIDS) 診断ガイドライン (第2版)」(厚生労働省 SIDS 研究班) (以下「ガイドライン」)「定義」では、「それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず、しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない、原則として1歳未満の児に突然の死をもたらした症候群。」と示されている。
- B × 選択肢Aの解説の通り「その原因が同定されない」と示されている。
- C ○ 「ガイドライン」「疾患概念」では、「主として睡眠中に発症し、日本での発症頻度はおおよそ出生 6,000～7,000 人に1人と推定され、生後2ヵ月から6ヵ月に多く、稀には1歳以上で発症することがある。」と示されている。
- D ○ 「ガイドライン」「診断」では、「乳幼児突然死症候群 (SIDS) の診断は剖検および死亡状況調査に基づいて行う。やむをえず解剖がなされない場合および死亡状況調査が実施されない場合は、診断が不可能である。従って、死亡診断書 (死体検案書) の死因分類は「12. 不詳」とする。」と示されている。
- E × 選択肢Cの通り「主として睡眠中に発症し」と示されている。

問6 正答 3

- A ○ 選択肢の通り。
- B ○ 選択肢の通り。
- C × 百日咳は、百日咳菌が病原体である。
- D × 伝染性紅斑（リンゴ病）は、ヒトパルボウイルス B19 が病原体である。

問7 正答 3

反抗とは大人のいうことを聞かなくなることで、子どもが発達段階で自我に目覚めてくることによって、大人のいうことを聞かなくなることは正常な状態である。一般に1歳半～2歳、6歳前後、13～15歳頃に反抗期があり、反抗は一過的な現象である。

- A ○ 選択肢の通り。
- B × 幼児の場合は現実と空想の区別がつかずつくり話が混じることがあるため、大人が嘘だと決めつけて否定することは避けなければならない、また、自己防衛のために嘘をつくことが習慣化しないように、「嘘をつくことはいけないことだ」とゆっくり説明していくなどの配慮が必要である。
- C × 反抗がみられる子ども、みられない子どもも、後になって精神的な問題を起こしやすいとはいえない。
- D ○ DSM-5によると反抗挑発症（反抗挑戦性障害）は、怒りっぽく / 易怒的な気分、口論好き / 挑発的な行動、または執念深さなどの情緒・行動上の様式が少なくとも6か月間は持続するとしていいる。大人に対する反抗や挑発は、定型発達の子どものにもある程度みられるものだが、症状の持続期間と頻度が、その子どもの年齢や性別などで標準とされるものを超える場合には、反抗挑発症（反抗挑戦性障害）が疑われる。